真校魅力だより その3

◆真室川校体育祭（6月10日(木)～11日(金)）

真室川校の体育祭は、運動会とクラスマッチを統合し、全学年の紅白対抗戦として10年前から２日間にわたり開催しています。心身の健全な育成と自主的な企画・運営・参加を通じて社会力を養うことが目的です。

初日は、100M競走・1000M競争・長縄跳び・ドリブルリレー・障害物競走・波乗り・組対抗リレーの運動会種目がグラウンドで行われました。

同点で迎えた二日目は、男女バスケ・フリースロー大会・イス取りゲーム・バドミントン・男女混合バレーのクラスマッチ種目で熱戦が繰り広げられました。僅差で優勝した白組組頭の矢口康生君（３年）は「組を上手くまとめ団結できた。練習の成果も出せて勝ててうれしい。」と勝利の弁を語ってくれました。

６月にもかかわらず真夏日に迫る気温の中、暑さに負けず競い合う真校生のまっすぐな姿が印象的な２日間でした。

長縄跳び

男女混合バレー

◆坐禅体験（6月14日(月)）

１学年を対象とした、「坐禅体験と講話」が正源寺（鮭延節侯住職）で開催され、生徒たちは自らの精神と向き合い、生き方や命の尊さを学びました。

遠田旭有住職から「命の尊さと生き方」と題し、住職本人の修行を基に命や生き方についてお話をいただき、非日常的な空気が漂う本堂での講話に、生徒達も真剣な表情で聞き入っていました。

静かな本堂で坐禅の体験

その後、坐布（ざふ）の使い方や足の組み方、呼吸の仕方や合掌低頭など坐禅の基本を教わり、約20分の坐禅を２回体験しました。生徒たちは警策（きょうさく）（坐禅を点検する僧侶が坐禅の姿勢が悪かったり集中していなかったりすると与えるもの）をいただくことなく心穏やかに坐禅をしましたが、最後に参加者全員が警策を体験しました。参加した小野綾日（あやか）さんは「講話を聞いてからだったので、リラックスして坐禅をすることができた。この体験を学校生活に活かしていきたい。」と感謝の言葉を伝え、貴重な体験を締めくくりました。

◆東北高等学校陸上競技大会　～髙橋薫選手７位入賞～

６月19日（土）～22日（火）に岩手県北上陸上競技場で開催された大会で、男子ハンマー投げに出場した髙橋薫選手（３年）が、47m02の自己ベストを叩き出し見事７位入賞しました。

インターハイ出場の６位にあと一歩届かなかったものの、新庄地区新記録という立派な記録を残しました。また、女子やり投げ競技に出場予定だった柴田和花選手（２年）は、肘痛のため今後の大会（秋の新人戦や来年度のインターハイ）を見据え欠場となりました。今後の活躍に期待です。